



令和7年(2025年)
1月24日

チーム十五中
授業力向上委員会

NO.91

【研修報告】

一次障害と二次障害

(大阪成蹊大学 滝本一夫先生)

●一次障害・二次障害とは？

発達障害の本来の障害特性による学習面、生活面、対人関係におけるつまづきや失敗経験の積み重なり、周りからの無理強いなどの不適切な対応の繰り返しによって、精神的ストレスや不安感の高まり、自信や意欲の喪失、自己評価の低下などを引き起こし、さらなる適応障害を起こしてしまうことがある。学習面だけでなく、不登校やひきこもり、反抗的な態度や反社会行動などの症状としてあらわれることもある。これらの症状を、本来の障害特性を一次障害というのに対して、二次障害と言う。この二次障害の「障害」は、一般的に用いられる「障害」の意味とは異なり、「障害」に伴って様々な生活機能が低下した状態という意味で用いられていて、改善の余地があるものである。

●二次障害への対応は早期に

障害特性による症状が悪化したり、違う症状が出るなど小さな様子の変化への気づき大切です。本人に対応を求めるのではなく、安心できる人的環境と居場所となる生活環境を保障することを、学校と保護者で共通理解し、考えていくことが重要。

一見すると同じような学習困難や行動問題（板書が写せない、集中力が無い）でも、その原因は子どもによりさまざまであるため、原因・背景を見極め、それに合わせた支援方法で指導・支援しなければ効果が望めない。

●二次障害への対応の基本

- ・特性に応じた支援を工夫する
- ・自信や意欲を失ったり自己評価が低くなったりしないように、自尊感情を高めていく。
- ・「わかった」「できた」という達成感や成就感を感じる経験を積むこと。
- ・自分の役割が与えられ、その役割をきちんと果たしていると感じられること。
- ・取り組めていること、役割を果たしていることを、周りの人たちにきちんと認められていること。

●この特性を考慮した学びのアクセス

出来たかどうかははっきりする場面やあいまいな指示で、「どうしていいかわからない」時に二次障害が起きやすくなる。

●信頼関係

子どもが安心できる人的環境とは、子どもと信頼関係が築ける環境。

子どもの話をたくさん聞き、子どもの考えていることを受け止める。

見通しが持てて分かりやすい指示を行う。

否定的な対応や無理強いはしない。

良い行いや小さな努力を認める。

居場所となる生活環境

仲間意識があり、互いに認め合い支え合う友達関係

ルールが遵守され、安心感が得られる教室

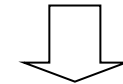
学習に意欲的に取り組むことが出来る成就感・達成感のある学級

不安になった時にクールダウンできる避難場所の確保

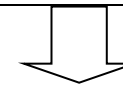
〈話し合いに使えるシート〉

課題（例：集中できないなど）				
----------------	--	--	--	--

推測される背景				
例 手遊びが多い	例 姿勢が悪い			



それぞれの背景への支援				
例 触っていいものを決める	例 時々休憩タイムを設定する			



明日からできる支援を考えてみましょう。				